

地域おこし協力隊通信

第43回



↑先日は水郷潮来観光協会でも借りられるEバイクを使用して市内を巡りました。写真左から、協力隊仲間の大澤さん（鹿嶋市）・田沼さん（行方市）・高橋



潮来市空き家・空き地情報バンク



リポーター…
高橋将行 隊員

皆さんこんにちは、協力隊の高橋です。年の瀬も迫り、慌ただしい季節となってまいりましたね。今年一年は様々なニューチャレンジを重ねることが出来ました。長いようで短く、短いようで長い、そんな一年でした。

さて、皆さんは年末年始、いかがお過ごしでしょうか。私は実家の八王子市に帰ってゆっくり過ごしたいと思っています。あと、久しぶりに家族全員が集合しますから、今年は家族会議をする時間を取りたいとも考えています。議題は『高橋家の今後』についてです。

両親いずれも年金受給のできる年齢を越えまして、これから私たち家族が解決すべき事柄について早めに目を向けたいと数年前から考えていました。いつか見たテレビドラマの主人公が「人は生まれその瞬間から、死というゴールに向かって走っている」と、そんな残酷だけど非常に印象に残るセリフを言っていました。自分ごとで置き換えてみると、家族の誰かがゴールテープを切るその瞬間、高橋家が紡いできた「絆」のようなものが相続によって散り散

りになる可能性もあるのです。家族仲は決して悪くない関係にありますが、いわゆる「争い」に発展する火種はどこかに眠っているかもしれません。

数年前には、エンディングノートを両親にプレゼントし、「将来の考えを整理してほしい」と依頼しましたが、両親には怪訝な顔をされましたが、知能も体力もセンスもない私が唯一、人に誇れる「愛する自慢の家族」と「愛する家族との関係・将来」を守るために、このノートが必要だと思い、意を決して渡したのを覚えています。が、記入はしていませんでした…。

地方では相続において、土地が問題になりやすいそうです。地形・土地管理・価格等の関係で相続が難しくなったり、売却処分がしづらいのではありますか。切り出しづらいついてはありますが、家族や親戚が集まる正月というタイミングに、家族の将来についてみんなで腹を割って話し、意見交換をしてみませんか。

年末ご多忙の折でございますが、皆様お体にお気を付けて、良き新年をお迎えください。
(高橋将行)

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる文化

第136回

絹本著色「源頼朝像」狩野洞雲筆

一筆（潮来 長勝寺蔵）

今年大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」により源頼朝が脚光を浴びているが、源頼朝像が長勝寺にあることはあまり知られていない。長勝寺は稲荷山の下にあり文治元年（1185年）源頼朝の創建と伝わっている。文治元年は、治承4年（1180年）より続いた源平の争いの最後を飾る年である。二月の屋島の戦い、三月の壇ノ浦の戦いで平家が滅亡し、十一月は全国に守護地頭の設置の勅許を得ている。鎌倉殿源頼朝にとっては記念すべき年であった。なぜ潮来の地に創建したかなど、詳細は残念ながらよくわからないが、国の重要文化財である銅鐘（十四代執権北条高時の寄進）の銘により鎌倉幕府・源頼朝との強いつながりを知ることができる。鐘銘及び序文は、鎌倉時代の名僧円覚寺一六世清拙正澄和尚である。



さてこの画像であるが、作者は狩野益信である。狩野益信は江戸時代前期に活動した狩野派の絵師である。狩野探幽の養子で、狩野洞雲とも言われる。源頼朝像としては広く知られているのは京都神護寺が所蔵する作品である。国宝に指定され、長く教科書にも掲載されていた。（最近の研究では、これは足利直義像との新説が出され、後、像主・成立時期などをめぐって論争が続いている。）その作品と比べてみると全体の配置、上置（あげだたみ）に座し笏（しゃく）を取って衣冠束帯を着しているところは共通しているが、姿形は向かって右に面貌を向ける守護寺の画像に対して、向かって左に面貌を向けている。大らかで端正な顔立ちの守護寺本系に対して、眉間に皺を寄せ厳しさを漂わせている。その描写や表情にまた違う趣がある。本作には太嶽祖清の賛文を上部に有している。太嶽祖清は京都の妙心寺第二五三世で徳川光圀に招かれて長勝寺の再興を果した人物である。なお、この作品は茨城県文化財に指定されていて、来年（令和五年）二月には県立歴史館で公開予定である。

潮来市文化財審議委員 堀江栄司